

館報

庄内



庄内地区	
令和6年7月1日現在人口	
世帯数	7,293 戸
男	7,272 人
女	7,300 人
合計	14,572 人
発行 庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)	
電話 24-1811	
FAX 24-1812	

庄内地区 町会行事・イベント情報

庄内地区15町会が今年度行う予定の行事・イベントを紹介していきます。今回、その中から5町会を取り上げました。公民館ニュースの特別号として、全町会の年間予定も回覧していきます。

並柳町会

日時：9月23日8時～
場所：町内を練り歩き

並柳町会のちよつと自慢出来る行事を紹介しします。それは30年ほど前に始まった神輿奉納です。平成になつて町内を盛り上げようと、青年会が発足し先ずは秋祭りに酒樽神輿を担いで町内を練り歩いて盛り上がりました。数年後には町内の皆さんに協力をお願いし、寄付を募り、立派な本神輿が完成しました。

並柳神明宮の秋季例大祭奉納の日、子ども神輿は午前中に町内を練り歩き、ジューズやお菓子の差し入れ、おでん、豚汁が振舞われ、神輿の重さや疲れも忘れてお祭りを楽しんでいきます。

本神輿は町内のメイン通を頭の「おんべ」に合わせて担ぎ手の「ソイヤーソイヤー」と威勢の良い掛け声と伴に練り歩きます。途中に頭の「おんべ」に合わせて何度も何度も高く担ぎ上げられ、神輿の上に鎮座する鳳凰は両翼を大きく羽ばたかせます。

町内練り歩きは両神輿とお囃子、太鼓が一緒に廻り、お祭りを賑やかに盛り上げます。このお囃子の笛や太鼓は太鼓連と笛の会のこどもから大人までが日々熱心に練習しており、祭当日は

その囃子の音に惹かれて町内の老若男女が沿道やイベント会場に集まり、祭は更に盛り上がりです。イベント会場では、酒や料理などが振舞われ、太鼓笛の演奏を楽しみ、最近では赤ちゃんを神輿の下をくぐらせる「神輿くぐり」で子どもの健やかな成長を親と共に皆で願っています。

神輿巡航に当たっては、毎年春頃から新しい頭のもとに集い神輿の企画計画を熱く語り合っています。そのお披露目が奉納神輿です。両神輿は町内を練り歩いた後、並柳東山の中腹にある並柳神明宮の秋季例大祭に奉納されます。その神輿の最大の見せ場は、並柳神明宮への参道です。沿道には町民がその勇姿を見ようと大勢詰め寄せています。約

100mの急な坂道を200kgほどの神輿が一気に駆け上がる！担ぎ手の掛け声はいつしか「ワッセー！ワッセー！」に変わっている！お宮前では氏子総代や町内の団体役員が総出で神輿を待っている！！そこへ子ども神輿と本神輿が奉納される！

神輿の常連達は「坂道はとても辛いけど、この達成感が癖になる」と言います。氏子総代、町民達そして青年会は子ども達がこの祭の思い出をいつまでも持ち続け、いつか並柳を盛り上げてくれる人材に育つてと見守っています。

(館報編集委員 横山 正一)



庄内町町会

「マスカみ大会」

日時：8月17日(土) AM
会場：庄内公民館

小学生以下を対象として、二ツマスを手で捕獲します。以前は田川に網を設置して行っていました。安全面などを考慮して今年には公民館の庭で開催します。

夕方からは花火大会と納涼祭。子どもたちは田川の河川敷で花火を楽しみます。公民館では納涼祭を開催します。町民の方は無料でビール飲み放題です。町内の方による楽器の生演奏もあります。

【半僧坊神社例大祭】

日時：10月5～6日
会場：半僧坊神社

浜松の奥山半僧坊を本社とする半僧坊神社が町内にあり、10月の第1日曜日に例大祭となります。コロナ禍以前は70人前後の人々が集まって直会を行っていましたが、近年は小学生を中心とした、ゲームやくじなどのイベントを開催しています。

(館報編集委員 小松 恵三)



三才町会

三才町会夏まつり

日時：8月4日(日) P.M
会場：三才公民館・三才公園

夏の一時を彩る夏まつり。コロナ禍を経て昨年復活しました。今年も盛大に開催いたします。このイベントは近年引越越しされてきたアパートの方々と、従来からお住まいの方々の交流の場となっております。

子ども達にとっては普段あまりお付き合いのないオジサン、オバサンたちとの世代間交流の場でもあります。小さなお子さん達も楽しめる輪投げ、ダーツ、ゴルフゲーム等を計画しています。好評の模擬店では、焼きそば、焼き鳥、ポップコーンをはじめお父さん方に大人気の生ビールコーナー等を設置します。今年度新たに生活援助支援金?として1世帯に300円のクーポン券を配布し、家族での来場を促します。みんなの夏の思い出の一つになればと思います。

また過日、町会長の発案による「公民館でパブリックビューイング」を開催。飲み物持参で山雅の試合をライブ視聴するという新たな試みも盛り上がりました。

(館報編集委員 大島 浩)

新家町町会

青山様・ぼんぼん

日時：7月27日16時
場所：町内を練り歩き

子どもの人数も少ない新家町。子ども達は青山様・ぼんぼんの意味合いをあまり理解していませんが、夏休みの恒例行事として楽しんでおり、「少しでも子どもがいるうちは、出来る限りやっ行ってこう」という趣旨のもと、開催継続しています。

有難い事に、保護者の皆さんが協力的であり、「毎年の青山様・ぼんぼんを楽しみにしている」というお年寄りの声もあるとの事なので、役員はそれを励みにしています。

高齢化と戸数減少が進み、町会役員のなり手が少なくなる中、任期を1年に短縮した組当番制に移行後も、組数を減らさない町会活動が維持出来ない新家町。正月の三九郎も子どもたちと公民館で「繭玉作り」から行うなど予定していますが、コロナ禍前に実施していたお祭りには残念ながら復活出来る見込みがつかない現状にあります。

(館報編集委員 大野田 彰孝)



中林町会

魚つかみ大会

日時：7月半ば予定

中林町会では、毎年、7月半ばに青年会主催で魚つかみ大会を企画・実行しています。2020年頭のコロナ禍以来、残念ながら取り止めになっていましたが、昨年からようやく再開できました。

以前は薄川で、今は神社でプールに入れた魚を、子どもたちが追いかけて手づかみで取ります。最初は手の中を又ルツと逃げられますが、慣れてくるとつかまります。

つかまえた魚はその場で捌いて塩焼きにしてくださいます。

魚つかみの後は、手作りの竹を模した管を使って流し素麺が始まります。子どもたちが群がって箸ですくって美味しそうに食べていました。子どもたちと参加されたご家族にも喜んでいただけただかと思えます。

昨年の魚つかみは、幼稚園・保育園や小学生の子どもたちが10名以上参加して大はしゃぎ、開催できて良かったと思っています。

(館報編集委員会 野村 一郎)

